

リトル・ダーリン

## 登場人物

柳二郎・・・ゴールデンパレスのオーナーであり歌手。

下川恵子／宝生恵子・・・中華屋【満腹亭】の出前。

金城良太・・・ゴールデンパレスの爽やかな歌手。

宝田譲治・・・ゴールデンパレスの司会者。

開門龍次かいもん・・・宝田を追う借金とり。

大井利也・・・ゴールデンパレスの舞台係。

黄金沢麗こがねざわ・・・ゴールデンパレスの華やかな歌手。

定金幸さだかねさち・・・ゴールデンパレスの影のある歌手。

ドラムの音。スポットライトが金城良太を照らす。芝居がかった調子で振り向く。

良太

ここは《ゴールデン・パレス》。新宿の端っこにひっそり佇むナイトクラブ！『昭和のラスベガス！』なんて呼ばれたのは遙か昔。今はご覧の通り、色あせた金のペンキ。けれど、音が鳴ると……まだ、夢の匂いがする。

スポットが広がり、店内が見える。ネオンサインがジジッとちらつく。

ジュークボックスから《MI》がノイズ混じりで鳴り出す。

良太

あ、今「この芝居、外れだな」って顔しましたね？

通りすがりのバンド、うなづきながら、自席へ。

良太

やだなあ、君たちまで！こういうの、一回やってみたかったんだよ。

良太が手を叩くと、ジュークボックスの音が轟音となり、生バンドへつながる。

出番前、慌ただしい様子の定金幸が良太に声をかける。

幸

ちよつと良太！（指差し）ほら見て、あそこ！茶色のスーツ！

良太

…銀映の社長さん、でしたっけ？

幸

ジロちゃんの歌を聞きにきてるの。（良太の腕を掴み）お願いだから、粗相だけはしないでちょうだい！

良太

はいはい。聞くのは二郎さんの歌だけだね。

幸、去る。舞台係の大井利也が駆け回っている。入れ違いで龍次が来る。

龍次  
（胸ぐらを掴んで）おい、さっさと返さんかい！

大井  
ひい！ぼ、僕じゃないですっ！！

龍次  
（離して）あいつどこいった。

宝田の声  
みなさまようこそ〜！

大井  
（指をさし）今日も絶好調ですね。

龍次  
見てみい。（手のひらに何か）今日の方やと。こんなもん置いて行きやがった。

大井  
なんですかこれ…銀歯？

龍次  
こんなもん、ただの医療廃棄物じゃ！

大井  
（手に持った銀歯を光に透かしながら）取り立て屋さんも、大変ですね…。

バンドの音が大きくなる。

良太  
（大井に）大井くん、マイクチェックは万全で！

大井  
（敬礼）かしこまりました！

良太  
（客席に）おっと、行かなきゃ！最高のショーの始まり！

宝田の司会。

宝田  
あなたの夜を三割増しで輝かせる男、宝田讓治でございます！  
笑いの打率は一割五分、ビミョーッ！（ズッコケ）

見てください、このゴールデン・パレス！「昭和のラスベガ

ス」今や「昭和の廃墟」。でもそれが逆にいい！寝転がって見ても大丈夫！（寝つ転がり）司会も寝つ転がって…なんて！

建物がガタついても、音は本物！

さあさあさあ！長話と女房のグチは野暮つてもんで！今夜の幕開けは、美の惑星から迷い込んだ女神、黄金沢麗カモーン！

華やかな照明が黄金沢麗を照らす。派手な衣装の麗が、《M2》を歌い上げる。

良太 いや、華が違いますな。やはり、この舞台の主演。

麗の明かりが強くなる。

良太 違う違う！こっち！

良太が指を動かすと、照明がベースを弾く二郎へ。

バンドは曲調を変え、二郎の《M3》に。二郎渋い声で歌い始める。しばらくして

??（声のみ）                      チャーハンとネギそば、おまちどうさまですう。

大井                                      （舞台袖に向かって小声で）いや今じゃない！あっちあっち！

二郎声が掠れ、咳き込む。暗がりから幸が歩み出る。

ハモリを重ね、ステージを立て直す。照明が不穏な音を立てて点滅。

大井                                      あれ、照明が…！

宝田

さすが幸ちゃん！照明までクラクラしてるわ。よっしや！光のダンスに合わせて！

《M4》

おかもちを抱えた下川恵子が、客席通路に現れる。

恵子

（小さく頭を下げながら）お、お待ち…チャーハンと…ネギそば…？

麗

（出前の存在に気づき）ちょっと！なんで出前が客席にいるのよ（龍次を呼び止めて）ねえ！止めてきてちょうだい！

龍次

俺？いや、そういうの得意じゃ…

麗

暇でしょ？ショーが台無しになってもいいの？

歌を続ける幸。コーラスで良太も入る。

恵子

（客に）頼んでない…？おかしいな。

恵子、時折客に聞きながら通路を徘徊。龍次が追いつく。

龍次

おい、あんた…。

恵子

ヒイツ！ヤクザ…！

龍次

ちが…いや、違わんけど違う！出前を…

恵子

そんな目で見ないでください！わ、私は真面目に働いとるんです！

龍次を避けようと逃げる恵子。

龍次

おい待て！

恵子

きゃあああ！

転倒。派手にお皿が割れる音。暗転。バンド演奏バージョンの蛍の光が流れる。

---

## 2 ショーの後

---

明かりが戻る。バンドメンバーは楽器を片付け始めている。

大井

衣装でクリーニングに出すものがある方、早めに出してください。  
さ〜い。

麗

明日からテンポちよつと上げるわ。いいわね？

バンド

(揃って手を挙げ) はい！

麗

ねえ良ちゃん。今日さ、あの社長…私のこと見てたかしら？

良太

サビの途中でトイレ行つてたけど。

麗

やつぱり！二郎さんが朽ちる前に、あのパイプを私に回しても  
らわないと！

良太

その前にさ、麗ちゃん…歌う時の横揺れをどうにかした方が

大井

いないですかあ？締め切りますよ。

二郎

(戻ってきて) おい！おかもち転がしたお嬢ちゃんのおかげ  
で、客が大笑いだったぞ。

大井

よかったあ、助かりましたね〜！

幸

助かってないわよ！ショーの最中に出前乱入なんて聞いたこと  
ないわ！

大井

おかしいなあ、「時間後に」って頼んだのに…。

恵子がやってくる。

恵子 (深々と頭を下げて) 掃除、終わりました。

二郎 ご苦労さん。で、いくらだったかな。

恵子 いえお代なんて!とんでもありません!

麗 あくら、そんな眼鏡かけてるのに、どうして裏口と客席を勘違いできるのかしら。

恵子 すみません。

麗 おかげで、床からネギそばの匂いがする。やんなっちゃう。ねえ良ちゃん。

良太 やめときなつて。

恵子 あの、まだシミ少しが残っちゃつて(ふらついて)おっと。

二郎 おい大丈夫か。

恵子 だ、大丈夫です。今日は、本当にすみません。

二郎 顔色が悪い。(紙幣を差し出し)これでなんかうまいもんでも食べな。

恵子 そんな、いただけませんっ!

宝田 (どこからともなく)さいでつか。ほな代わりにいただきまひよ。(紙幣を奪い)

恵子 あっ!

宝田 龍次はーん、今日の分の足しでっせー!

恵子 ちよつと!返してくださいーっ!

恵子、宝田を追って走り出すが、息が上がり、足元がふらつく。二郎が慌てて支える。

二郎

おい！大丈夫か！？

恵子

大丈夫です、大丈夫です……。

恵子、二郎の胸に寄りかかる。完全には倒れず、支えに身を預ける。

二郎

おい……おい！

舞台裏

大井

いいんですか？俺送って行きますよ。

二郎

ああ。先に帰りな。

大井

ありがとうございます。じゃあお言葉に甘えて。

少し離れた床には、恵子が、薄い布をかけられて横たわっている。

恵子

（急に起き上がり）遅刻しちゃう！

二郎

お客さん、いったいなにに遅刻するんだ？

恵子

（あたりを見まわし）えっ、えっ？ここは……どこ……？

二郎

救急車呼ぶか？

恵子

い、いえ。もう大丈夫です。すみません。ここのところ、寝られていなかったものですから。

二郎

寝れてない……？

恵子

働いてるんです。昼間の出前の後に、（指折り数え）純喫茶の夜間と、バーの洗い場でしょ。それから工場のライン作業と……たまにパチンコ屋の掃除。

二郎

随分と掛け持ちしてるな。

恵子

でも最近どこもなかなかシフト入れてくれなくて。その……キヤバレーで働こうかなんて、考えてるんです。でも、こんな私を雇ってくれるキヤバレーなんか、どこにもないって言われるんですけどね。あはは

二郎

眼鏡、一度とつてみたらどうだ。

恵子

そんな……恥ずかしいです。

二郎

人の心はな、目を見ればわかるんだ。ほら。

恵子

はあ……。

恵子、躊躇いながら眼鏡を外す。

二郎

……。

恵子

（すぐ眼鏡を戻し）ほ、ほらあ。だから言ったじゃないですか、変なんです私。

二郎

君、名前は？

恵子

下川恵子です。

二郎

下川……。そうか。

恵子

え、な、なんですか？

二郎

なんでもない。昔の知り合いに、目がな。思い出したただけだ。

恵子

びっくりしたあ。二郎さん、急に怖い顔して。

二郎

俺のこと、知ってるのか？

恵子  
もちろん！ゴールデン・ブラザーズの柳二郎！母が、二郎さんのレコードが好きで。

二郎  
嬉しいね。サインでもしようか。

恵子  
いえあの、今は……。病室にも持って行っていました。それだけは、手放さなかつたんです。

二郎  
悪い。

恵子  
いえ。だから……本物の二郎さんにお会いできて嬉しかったです。長居してすみません。

二郎  
（去ろうとする恵子に）恵子ちゃん、と言ったか。

恵子  
はい。

二郎  
うちで働いてみるか。

恵子  
えっ？

二郎  
もちろん無理にとは言わない。だが、夜のお勤めは性に合わないだろう。

恵子  
いつ、いいんですか！配膳でも、あつ私、皿洗いは誰にも負けません！

二郎  
皿洗いじゃない。

恵子  
えっ？

二郎  
もう一度、眼鏡を外せるか。

恵子、戸惑いながらも、今度はゆつくりと眼鏡を外す。

↑  
開店前

音楽。《M5》

良太 (ナレーション) 翌日！

歌う良太。その後でクネクネと踊っている(つもりの)恵子。

幸 あの動き、どこか見覚えがあるわ。

二郎 ……水揚げされた、タコ…？

幸 それだわ！

二郎 バックダンサーにどうかと思ったんだが、まさかこんなに踊れないとは。

麗 何あれ、やだわあ。二郎さん一体どういうつもり？

二郎 (遠くから恵子に) おい、そのタコ娘！この曲は知ってるか？

恵子 (踊りながら) はい！

二郎 (ベースを弾き) なら歌ってみろ、コーラスに入るんだ！

恵子 (踊りながら) えっ、でも

二郎 いいから！

恵子、良太の後ろでコーラスを入れる。歌う。

二郎 (幸に) どうだ。

幸 そうね…。

麗 あんな雑なコーラスに邪魔されて、良ちゃんが可哀想。

恵子、転ぶ。

幸 あ、転んだ。ただ歌ってるだけなのに。

恵子 (良太に) すいません！

二郎 鈍臭いな。

麗 ほんつと地味〜。

二郎 でも…声は悪くない。

幸・麗 はあ？

良太 (ナレーション) こうして、閉店後、二郎さんの特訓がはじまったのです。

今後は恵子がメインボーカルを歌っている。

二郎 速い！三連符の頭を食うな！波を聞け、波を！

恵子 (歌いながら) はい！

良太 (ナレーション) いつしか、幸さんも加わり

幸 キョロキョロしない！お客さんはあなたの表情を見るのよ！

恵子 はい！

宝田 (走り) ないもんはないねん！

龍次 待てこら！(急停止)…誰やあれ。

宝田 知らん。二郎さんが拾ってきたらしい。

二郎 タメ！タメがない！なにをしてるんだ！(咳き込む)

宝田 珍しいわな、二郎さんがあんなに熱心に指導するもの。(去る)

龍次 あれ？中華屋の出前の…(宝田がいないので) おいこら！

幸 ジロちゃん。今日はここまでにしましょ。

二郎 平気だ。気にするな。

幸 何いつてるの。さつきもステージで咳き込んで。薬飲んでないの？

二郎 酒とタバコが俺の薬なんだって。

大井 (お水を差し出す) けっ恵子ちゃん、はい。

恵子 えっ私に？

大井 あ、あの、お、お疲れ様です！(走り去る)

麗 (良太に) 良ちゃん。銀座行かない？私、あまいカクテルが飲みたい気分なの。ね？行きましょよよ、こんな子ほつといて。

良太 その前に、麗ちゃん。歌うときの横揺れ、直そうよ。

麗 はあ？揺れてないわ！(恵子に) ちよつと！

恵子 は、はい。

麗 あんまり調子に乗らないで。眼鏡外したところで、垢抜けないことには変わらないんだから！

良太 (ナレーション) 気づけば、夜な夜なスパルタ。

二郎 母音を立てろ！

幸 マイクの持ち方！

二郎 しゃくり逃すな！エッジ出せ！

幸 肩！丸まってるわ！笑顔！

良太 下川恵子がゴールデンパレスに来て、4ヶ月の月日が流れたのです。

二郎が手を叩き、曲が終わる。

二郎 (ベースを置き) さっきのサビ、よかった。休憩だ。(去る)

恵子 もう一回、お願いしますっ！

幸 あのね、空手の道場じゃないんだから。

大井 (タオルを渡そうと) 恵子ちゃん、あの…！

良太 この短期間で、発音も良くなったし、高音もだいぶ安定してきた。

幸 大したものね。

良太 ほんと、根性あるなあ。無理をしていないか？

恵子 いえ、全く。…楽しいんです。音に包まれてると、なんか…生きててもいいんだ、って思えるんです。

大井 (タオルで涙を拭き感動) 恵子ちゃん…！

幸 青春ね。…楽しいうちに、いっぱい歌っておきなさい！

客席通路に宝田が現れる。

宝田 サイン、サインはいらんかね。書き立てほやほや。

恵子 (良太に) あれは？

宝田 元ゴールデンブラザーズ、柳二郎の直筆サイン。

良太 馬券を買うために、ああやって小銭稼ぎしてるんだ。

宝田 飾れば開運、商売繁盛！おい、誰も買わへんのかい(色紙を見て) 柳二郎の…あれ？これだけ【二郎役の俳優の名前】って描いとるがな、何間違えてんねん。(客の一人に色紙を渡して) やるわ。

舞台袖から、龍次が怒鳴りながら駆け込んでくる。大井が体当たりを食らう。

大井 いたっ！

宝田 まずい！

龍次 (手帳を掲げて追う) お前！なんや年金手帳なんてよこしやつて！

宝田 わしゃのう！将来の安定より、馬券ちゆう夢が欲しいんや！

龍次 年金は他人に譲渡できんのじゃ！！

宝田 大穴当てて、利子つけて返したるわい！

龍次 ごちやごちやぬかすな！さっさと返せ！

帰り支度をした麗がやってくる。会話の最中、宝田と龍次は舞台奥でトムとジェリーのよう追いかけて続ける。時折どちらのものとも言えない雄叫びが聞こえる。

麗 ねえ。

バンド (一斉に) はいっ！

麗 あの曲飽きたあ。私が飽きたら、お客も飽きるのよ？

バンド (一斉に悲しそうに) おおう…。

麗 洒落た曲、来週までに仕入れておいてね。

バンド (一斉に手を上げて) はあい！

二郎がやってくる。

二郎 ちよつといいか。

良太 (全員二郎に注目し)

二郎 恵子。(くす玉の紐を渡し) 引っ張ってみろ。

恵子 えっ…？

良太 なんですかこれ。

麗 なに？誕生日？

二郎 恵子。お前がここでたこ踊りしてから半年弱だった。

麗 あはっ、たこ踊り！ひっどかったわねえ。

二郎 でも、歌ってるお前は、水を得た魚だ。

麗 は？

二郎 これから舞台で歌うのに、下川恵子ってのはよくない。お前に新しい名前を(宝田と龍次に耐えかねて)うるさい！！！

宝田・龍次 (急停止し) ぽへ？

良太 (宝田と龍次に) 恵子ちゃんの芸名だつてよ。

恵子 芸名…？

大井 ゴールデンパレスは、先代のオーナーの意向で、縁起のいい名前をつけるんです。

恵子 縁起のいい名前、ですか。

大井 二郎さんは元々の名前だけど、幸さんは定金幸、良太さんは金城良太。

宝田 ワシは宝田譲治、こいつは大井利也。大入りや！

恵子 そうなんですネ、知らなかった。

大井 (切ない) 恵子ちゃん…。

幸 あなたの芸名は、ジロちゃんが考えたのよ。さ、引っ張ってみて。

宝田

ガッテン！

宝田が勢いよく薬玉を引く。中には【宝生恵子】の文字。

全員

あ！！

二郎

はうあ！

幸

(宝田を叩きながら) なんであんたが引くのよ！

恵子

宝生、恵子……

良太

恵子ちゃんにぴったりの名前ですね二郎さん……ってすごい落ち込んでる！

幸

ジロちゃん、昨日から一生懸命準備してたもんね。

宝田

すんまへん。

二郎

(蚊の鳴くような声で) いいよ……

恵子

二郎さんから頂いたこの名前で！精一杯歌いまあす！！(大声)

龍次

恵子ちゃん、ここ山やないで。

宝田

まあすまあすまあす……

龍次

山びこすな。

二郎

来週お披露目だ。恵子メインで行くぞ。

良太

おおー！来週ですか。

幸

いくらなんでも早すぎない？

麗

そうよ！私、メインで歌わせてもらうまでに「年かかったんだから！

二郎

恵子ならいける。な？

恵子 (返事のように) 宝生恵子!!!

良太 やったね! 何歌おうね!

麗 何よ良ちゃんまで! (去る)

解散。二郎と幸はバンドと来週演奏する曲を打ち合わせしている。大井、恵子に近づき

大井 け、恵子ちゃん。お…おめ

龍次 よかったな、宝生恵子! おめでとう!

大井 あっ!

恵子 龍次さんありがとう。素敵なショーになるように、祈っててくださいね。

龍次 おう。頑張れよ。

恵子、去る。龍次を睨む大井。

龍次 な、なんや。

大井 この…チンピラがあっ! (泣きながら去る)

龍次 いやなんやねん!

客席のざわめきが引いていく。舞台照明がやや落ちる。

5  
深夜のゴールデンパレス

二郎、椅子に腰を下ろして譜面を眺めているが、小さな咳。幸が、その様子に気づく。

幸

……また無理してる。

二郎

……あいつのお披露目だ。俺も花を添えなきゃ。

幸

今日も飲んでから歌ったでしょう。……バレてるんだからね。

それ、ウイスキーでしょ。

二郎

違う！

幸

あ、そう？

二郎

ジンだ。

幸

どっちでもいい！あどつちもだめ！

二郎

飲んだ方が声が出るんだよ。

幸

ねえ、病院に行つて。

二郎

（鼻で笑つて）医者がステージに立てるなら行くさ。

幸

ずっと言ってるでしょ。このままじゃ体が持たない。どうしたら、お酒やめてくれる？

二郎

そうだなあ。サッチャンがまた、あの歌を歌ってくれたら、かな。

幸

……じゃあ一生飲んでて。

二郎

冗談じゃないよ。本当にすごかったんだ。魂が震えた。

幸、目を伏せる。

幸

ジロちゃんには感謝してるのよ。ボロボロだった私を拾ってくれて。でも……あの歌だけは、もう歌えない。

二郎

どうして。

幸  
（首を振る）……歌うと、あの子の顔が浮かぶの。子守唄がわりに歌っていたから。

20

二郎、幸を見る。幸の声が少し震えている。

二郎  
会えてないのか。

幸  
……会う資格なんてないわ。いろいろ……間違えたもの。

二郎  
バカだよお前は。いや、バカだった。でも、だからって、歌ま  
で捨てるのは、もっとバカだ。

幸  
わかってるわよ。

短い間

幸  
歌うとね、戻りたくなるの。戻れないってわかってるのに。そ  
れが一番……こたえるの。

二郎  
……。

幸  
だから歌えない。罰なのよ。私の。

静かな間。

二郎  
（ぶつきらぼうに）音楽を、勝手に自分の罰にするな。

幸  
……そうね。

二郎  
まあ。酒は、やめるよ。……そのうち。

幸  
、そのうちには信用できないわ。

二郎  
こうしよう。（ゆっくり立ち上がり）恵子の初日が終わつた  
ら、一回だけ医者に行く。それで文句ないか？

幸 ……うん。

二郎、よろけ、幸が支える。

二郎 おっと……！

幸 ほら、やっぱり無理してる。

二郎 (情けない笑いで) すまん。

幸 ……ジロちゃん。

二郎 ん？

幸 随分恵子に期待してるのね。そんなに特別？

二郎 ……なんだろうな、引つかかる。

幸 引つかかる、ねえ。珍しいわね。あんたが感情で動くなんて。

二郎 俺はただ、あいつの才能を認めているだけだ。

幸 まあね。好いたお人と別れて何十年、女つ気なし。目の前に

(私のような) 美女がいても、全く見向きもしないジロちゃん  
だもんね。

二郎 余計なことを言うな。

幸 はあい、店長さん。

二郎 (歩きながら) なあ。

幸 ん？

二郎 俺が代わりに、テネシーワルツを歌うつてのはどうだ？

幸 (軽く笑って) ガサツな人に、あれは歌えないのよ。

微かに笑い合う二人。照明がゆっくり落ちる。

良太 新宿の片隅、ゴールデンパレスに明かりが灯る。でも今日は少し違う。宝生恵子のデビューショーが、今、そつと始まろうとしている。少女の夢と、男たちの日常が、ほんの少し混ざり合う瞬間――

大井 良太さん。

良太 えっ？

大井 さつきから誰に話しかけてるんですか？

良太 マイクだよ！マイクテスト！

恵子がジャージ姿で座り、年季の入った小さな写真を両手で大切そうに胸元に隠している。幸が、静かに隣に腰掛ける。

幸 (座りながら) おめでとう恵子ちゃん。いよいよね。

恵子 あ、幸さん……。あ、ありがとうございます。もう、心臓が口から飛び出しそうで……。

幸 大丈夫。ジロちゃんが、あなたの歌をどれだけ信じているか、知っているでしょ。

恵子 はい。

幸 (写真を見て) それは？

恵子 亡くなった母の写真です。これがないと、不安で……。

幸 そう。でもね、あなたはもう「お守り」は必要ないわ。あなたは、宝生恵子。その歌声がついているんだから。

宝田が競馬新聞を広げ、爪で赤鉛筆を削っている。

宝田 (競馬新聞を読みながら) ほんで？ワシが言った通り、ちゃんとデートに誘えたんか？

大井 そんな、話しかけるだけで精一杯ですよお。

宝田 それでも男か？バシイ！て行かんと！

大井 ああ、恵子ちゃん…考え事する時ね、顎に手を当てて首傾げるんですよ。歌ってる時も、もちろん。たまらなく可愛いらしいんです。

宝田 (やってみる) こんな？

大井 全然違います。

宝田、一瞬ムツとするが、すぐ競馬新聞に目を戻し、大井に手を差し出す。

宝田 ほい。

大井 へ？

宝田 へ？やないがな！お悩み相談料。

大井 え、取るんですか！全然真剣に聞いてないじゃないですか！

宝田 世の中な、人に話聞いてもろてタダで済むわけ…あああ

あ！？ちよ行つてきまつさ！すぐ戻るわい！！

猛スピードで駆け出し、大井の肩にぶつかる。

大井 いたつ！どこ行くんですか！もうすぐ始まるんですよ！？

宝田 (遠ざかる声で) 大穴じゃ大穴！三レースの三連複、大穴が来たんじやあああ！

ジャージ姿の恵子が腿上げのようなものを繰り返している。

恵子

（腿上げをしながら）生麦生米生卵！隣の客はよく柿食う客だ！ああ！客がいなかったらどうしよう！隣のも何も客がいなかったらどうしよう！

麗

（背後から）客ならいるわよ。

恵子

うわあああ！（振り返り）麗さん！

麗

銀映のプロデューサーにレコード会社の重役。…二郎さんが、あなたの晴れ舞台のために呼んだのね。

恵子

（先程の早口言葉が抜けず）客がいるんだどうしよう…！！

麗

はい。

麗、恵子にスパンコールのドレスを渡す。

恵子

…これは？

麗

今まで意地悪なことばかり言って、ごめんなさいね？私、本当は恵子ちゃんの才能を、ずっと認めていたの。

恵子

えっ…？そ、そうなんですか？

麗

デビューの日には、これくらい華やかな衣装が必要でしょ？この店のスターに、ピッターよ。

恵子

きれい…。

麗

私の私物だけど、特別に貸すわ。これで今までのこと、許してくれる？

恵子

そんな許すだなんて。

麗

楽屋にかけておくわ。楽しみにしてるわね！あと、歌う前に早口言葉は必要ないわよ。

麗、去る。

良太・そして龍次が照らされる。微かにドラムマーチが聞こえる。

良太

開門龍次は迷っていた。開門龍次は気の弱い男であった。「ここでこの世界に入り、痛みに弱く刺青も彫れず、ドスも握れない男であった。任される仕事は端金の回収のみ。開門龍次は今、猛烈に迷っていた。

スローモーションで走る宝田。それをスローモーションで追う龍次。

以下宝田の台詞は宝田の声も重なる。

良太

彼が回収に来ていた宝田譲治という男が「一世一代の大勝負！わしゃでつけえ男になるんじゃあ！」と叫びながら、今日のメインレースの馬券を握り締め、飛び出して行ったのである。宝田は競馬に魂を売った男であった。そして逃げ足の速い男であることを、龍次が誰より知っていた。

宝田、叫びながら去る。

良太

デビューショーまで、残り五分。このままだと、司会者が不在のショーになることは明白であった。

その場で走る龍次。恵子の声为天から降り注ぐ。重なる天上の音楽。ところどころ重なりながら、不思議な響きを持ってリフレインする。

恵子（声）

龍次さんありがとう。素敵なショーになるように、祈っててくださいね。

大井

あと半分です！宝田さんは！？

龍次は立ち止まり、ドラムマーチが止む。振り返る龍次。固く拳を握る。

良太

開門龍次は、走ることをやめた。

大井

(龍次に) ちよつとどこいくんですか！

ナレーション終わり。舞台が明るくなる。スポットライトが客席と舞台に当たる。

龍次

へ、へ…

龍次、舞台中央へ。

龍次

へい、ケモオオン！えー、ようこそ！ギョールデン・ピヤレ  
スへ！今夜皆様にご紹介いたしますのは、新たな夜のシンデレ  
ラ！その名も！ほーろーうしよーろーう！きえいこ！

幸

(二郎に小声で) …何してるの、あの人。

二郎

(飲みながら) 知らん。

幸

飲まないの！

龍次

そしてなんと！今夜限りの前座！親分子分、ブンブンブン！柳  
ッ！ズイローローウ！

《M6》二郎、歌う。幸がコーラスで入る。途中で歌詞が飛んでしまう。ごまかしながら  
なんとか歌い終える。事故寸前の歌。

龍次 金と夢！義理と人情が交差するこの場所で！ひとりの乙女が歌  
います！流れる汗と滴る血！いや血はない！！クラブユアへ  
ンズ！

拍手がまばらに起こるか、起こらないか。

龍次 足りねえ！本気の拍手は、もっとゴツいやろ！

大井 一体、何を始めたんです？司会は宝田さんで…。

幸 (小声で) 変なものでも食べたのよ。あんたは持ち場を離れな  
い！

龍次 お待たせいたしました！黄金の輝きを纏い、宝生恵子！レディ  
イイイイイイイ、ゴー！！！！！！

龍次、勢いよく舞台袖を指差す。しかし誰も出てこない。

龍次 宝生恵子さん？

間

龍次 お、おやあ？デビューから焦らすなんて、悪い女っ！

幸、龍次に耳打ち。

幸 中止よ！五分で代わりの曲を！

龍次 えっなんで！

瞬間、恵子が俯きながら出てくる。三角巾に割烹着姿。

幸 (恵子に) だめ！すぐ戻って！

大井 ……嘘だろ。

二郎 恵子！やっってるんだ！

恵子 (幸に) ごめんなさい、これしか…楽屋にこれしかなくて…。

龍次 いやこれは！粹な演出ですよ！おふくろの味、みたいな！

スパンコールのドレスを身に纏った麗がやつてくる。

麗 さすが新人！面白い冗談が好きなのね！

恵子 (顔を上げ驚き) それ…！

麗、すれ違いざま恵子にだけ聞こえるように。

麗 割烹着がお似合いよ。このチャーハン女。

恵子 ……。

龍次 (聞こえておらず) えー、本日は内容を少々…

恵子 (小声で) 私は…もう、下川恵子じゃない…！

二郎 恵子！戻れ！

恵子 二郎さんごめんなさい。

恵子、センターに。

恵子 見てて、お母さん…！私は、宝生恵子よ！

幸

恵子ちゃん！

突然、無音の中で歌い出す恵子。《M7》

二郎がベースラインを打ち始め、他のバンドメンバーも演奏に加わる。

幸や良太もコーラスに。

麗

(バンドに) ちょっと！勝手に演奏するなって言ったでしょ！

曲は本来演奏する予定だった《M8》に。

麗

(違うバンドに) いいの？オムライスふうふうもなしよ！！

演奏を続けるバンド。おかもち蹴り飛ばし去る麗。

恵子はおかもちをドラムのように叩いたり、小道具を取り出したり。

宝田が競馬場でレースを見ている様子が差し込まれる。

良太

宝田譲治はこの時、競馬場で泣いていた。

恵子、割烹着のポケットの中から紙吹雪をまくなど、明るく歌い切る。

観客の拍手。恵子は深くお辞儀をする。

龍次

(感極まり、涙声で) ブラアアアボオオオオオ！これぞ、宝生

恵子の任侠道、あつ違うヤマトダマシイ！

舞台裏。恵子、振り返り二郎の元に駆け寄り抱きつく。

良太 (ナレーション) ここで少し、時を戻そう。

アナウンサーの声  
最後の大直線！大外から15番、大穴のドリームチェイスが猛然と追い込み、ゴールイン！

宝田 (激しく慟哭)

良太 宝田讓治が全財産と借金で買った馬券は、65万5千円の配当となった。

宝田 (啜り泣き)

良太 昭和の当時、それは二度と競馬場に来る必要がない金額だった。

宝田 (歓喜の泣き)

龍次 (宝田から紙を受け取り) これからどうすんねん。馬主にでもなるんか。

宝田 馬はもうええ……。

龍次 は？

宝田 お前、ワシのいない間に、大層ウケたらしいな。

7 おかもち恵ちゃん

良太 (客席に) え？こいつらのことなんかどうでもいいから、恵子はどうなったのかって？

BGMで華やかな音楽《M9》が流れ出す。客に愛想を振りまく恵子。三角巾に割烹着姿で、たくさんの贈り物や花束を持っている。

良太 はい出ました。【おかもち恵ちゃん】。出前姿で懸命に歌う姿が、瞬く間に新宿の話題を搔つ攫った。おかげでうちは連日大盛況つてわけです。

客席の通路に麗がやってくる。首から立ち売り箱を下げて練り歩く。

麗 プロマイドゥ。撮りたてほやほや。つて重いっ！なんであたしがこんなことしなきゃなんないのよ！

良太 (舞台上から麗に) 麗ちゃん、笑顔笑顔。

麗 うるさい！

良太 あれえ？俺の時はすぐ売り切れたのにな……つて麗ちゃん、自分の売ってる！

麗 黄金沢麗、黄金色の輝きを閉じ込めたサイン入りよ！(客席に) 買って！買いなさいよ！

幸 (良太に) ねえ、恵子宛の花輪、また届いたの。運ぶの手伝つて。

良太 花輪……また？

麗 銀映！？銀映でしょ！？そうでしょ！？

幸 多分ね。私だつてもらつたことないのに。

麗 (髪を振り乱し) 私のパイプウウ！

幸 落ち込まないで。プロマイド、一枚買ってあげるから。

麗 嘘だと言ってええええええ！

照明変化。二郎がベースをいじっているところに、恵子が小走りでやってくる。

恵子 二郎さん！今日の分の売り上げと、チップです！

二郎 (ベースを見たまま) …持つとけ。

恵子 受け取ってください。二郎さんがいなかったら、私は歌えてませんから。

二郎 (咳き込み弦を弾く) 客は、お前の歌を聞きに来てんだ。

恵子 そんな！

二郎はベースを抱え、咳き込みながら去る。しやがみ込み、錯乱した麗の奇声。

麗 (嘘だと言って) ええええええ！

恵子 (駆け寄り手を差し出し) 大丈夫ですか？

麗 (立ち上がり手を払いのけ) あんた、あたしのことバカにしてんでしょ。勝ったって思ってる？

恵子 思ってません。それに、音楽は、勝ち負けじゃありませんから。

麗 はっ！あなたの歌なんて一発芸よ。面白がられてるだけ！いい？あたしはね、札幌、天神、どの店でもトップ張ってきたの！

恵子 いつか麗さんに認めてもらえるように、私頑張ります。

麗 フン！そんな時が来たら、おかもちでもなんでも持つて歌ってやらあ！

恵子 麗さん。

麗 ……何よ。

恵子 (悪意なく) 歌う時、すごく横揺れしてますよね。あれって何か意味があるんですか？

麗 やっぱりバカにしてんでしょー！！

幸 (タバコの煙を吐き出す) ありがとう。助かったわ。

良太 しかしすごいですね。入れなかった客が外で聞いているなんて。

幸 恵子の勢いは本物よ。

良太 銀映のスカウトも本気らしいですよ。何回も口説いてるって。

幸 断るなんて、よっぽど出前が好きなのね。

良太 人生最大のチャンスですよ?! 何考えてんだか…。

幸 恵子はいいの。

良太 え?

幸 それより最近、ジロちゃんが変なのよ。

良太 二郎さんは元々変な人ですよ。

幸 そうじゃなくて。急に事務のやり方を聞いてきたり、店の通帳

とハンコを私に預けたり。

え、それって…。

幸 おかしいでしょ? こんなに売れ行きがいいのに。私「この流れ

で銀座に移転しましょう」って言ったんだけどね。

良太 銀座!?

幸 その時は店長、あなたね。

良太 えっ俺? いや無理無理無理!

幸 腰抜け。いつまでフラフラしてんのよ。

良太 いや銀座って言ったたら幸さんでしょ。あー、幸さんになる前

の幸さんだ。俺、銀座のジャズバーではじめて聞いた時、ほんと痺れたんですから。

幸 昔話はよして。

良太

また聴かせてくださいよ。俺たちの新しいゴールデン……いや、『シルバーパレス』で。

幸

それランク下がってる。

---

ゴールデンパレスの事務所

---

二郎が電話をかけている。

二郎

…もしもし柳です。…え？ああ。いい。代わらなくていいよ。…君に話がある。お母さんのことで。

恵子が勢いよく入ってくる。

恵子

二郎さん！

二郎

(電話口の相手に)ごめんね、また電話する。

電話を切る二郎。

恵子

あの、二郎さん。

二郎

どうした？

恵子

さっき、また、銀映の方が来て…。

二郎

そうか。

私の歌を、もっと大きな劇場でやりたいって…言われまして。

二郎

ついに来たか。で、どう思ったんだ？

恵子

正直、怖いです。

二郎

怖い？

恵子

リサイタルだけじゃなくて、春から全国回るとか、映画の主題歌の話まで出て…頭が追いつかなくて。

二郎

…そうか。

少しの間

二郎

今週末までにロッカー、片付けとけ。

恵子

…え？

二郎

銀映の担当とは、俺が話す。お前は歌のことだけ考えてればいい。

恵子

そんな…私、ここを離れるのが怖いんです。二郎さんがそばにいないと。

二郎

銀映は本気だ。リサイタルに合わせて、新聞の取材も組むつもりでいる。宝生恵子の名前をちゃんと、売る段取りだ。

恵子

…。

二郎

今を逃したら、二度と来ない。

恵子

でも、わたし…そんな大きい場所で歌える気が、しないです。

二郎

ここに、しがみつくな。港にいれば安心だ。でも、船は行つちまう。

恵子

二郎さん…。

二郎

銀座に移ったら、たまに顔を出せばいい。お前は、本当はここで止まる子じゃない。

恵子

でも…離れたくないんです。…二郎さんじゃないと…。

二郎

(背を向け) もう、お前には必要ない。俺もこの調子だ。いつまでも構ってやれない。

恵子 そんなこと……言わないでください。

二郎 (背を向けたまま) 戻れ、恵子。今は、歌だけ考えろ。

恵子 私は……二郎さんが、この店に連れてきてくれたから。歌えたいんです。褒められたくて、役に立ちたくて……それだけで。

二郎 もう、その必要はない。よく頑張った。

恵子 (小さく笑って) そんなわけない。私、全然強くないんです。ほら……お守りだって(写真を出して) 幸さんにはもう必要ないって言われたのに……。

二郎 (その場で、写真から目を離せない) ……恵子。

恵子 亡くなった母です。……前に話しましたよね、二郎さんの歌が、大好きだったって。

二郎 そんな……

恵子 二郎さん？

二郎 なんでもない。

恵子 二郎さん、言っていました。人の心は、目を見れば、わかるって。

二郎 ……。

恵子 どうしたんですか？

沈黙。

二郎 若い頃だ。俺が……まだ、食えなかった頃。あいつは、それでもついでこようとした。あの頃の、俺の全てだった。

恵子 ……お母さんが？

二郎 苦勞させたくなくて、俺の方から、身を引いた。売れて、迎えに行った時には、もう家庭があつてな。幸せなら、それでいいと思つたんだ。

恵子、息を呑む。

二郎 そうか……。眼鏡を外した時の目。考え事をする時のクセ……。似てるはずだ。

恵子 ……。

二郎 お前が……。あの子の……。

恵子は母の写真を胸に戻し、二郎の前にひざまずき、震える二郎の右手を自分の両手でそつと包み込む。

恵子 母は、二郎さんのレコードを聴きながら、「生きててよかった」って言っていました。

二郎 ……。

恵子 私も、歌つてると、そう思えるんです。

二郎 そうか。

間

二郎 (小さく) 俺も……

恵子 え？

二郎 お前の歌を聴くと、思うよ。

恵子 二郎さん。……リサイタル、受けます。

二郎

恵子……。

恵子

ただ、一つだけ、わがままを言わせてください。バンドも、メンバーも、今まで通りで。

二郎

……。

恵子

それから……一緒に、歌ってほしいんです。

二郎

俺と？

恵子

はい。お客さんは、宝生恵子の歌を聴きに来る。でも私は……

二郎さんと一緒に鳴る音を、聴きに行きたい。

二郎の表情が曇る。

二郎

あの頃のように、歌えない。お前の晴れ舞台を、壊すかもしれない。

恵子

それでも……また、聴きたいんです。母も、きつと。

二郎

……。

恵子

二郎さん。

二郎

どんな音が、するんだろうな。

恵子、息を呑む。

二郎

……歌おう。恵子。一緒に。

6

ラストショー

リサイタル当日の舞台上。揃いのスーツ姿の宝田と龍次。舞台裏と交差して展開する。

宝田・龍次

はいどーも！

龍次 (手を挙げ) 龍次です！

宝田 (手を挙げ) 譲治です！

宝田・龍次 (揃った動き) リュージ・ジョージです！

宝田 ごきげんよう！ 今日から晴れて芸人・宝田譲治でござい  
ます！

龍次 (客席に) 失礼します！ こないだまでこの人の借金担当して  
た、龍次です！

宝田 おい、早速バラすなや！

龍次 いやバラしたほうがわかりやすいやん！ 昨日まで差押予告の  
紙を湯たんぽみたいに抱えてた、この人ですよ！

宝田 返したわい！ 万馬券、ズバアンツ！ 人生初の的中じゃ！

龍次 (客席に) 皆さん、この人ね…馬券買うために、自分の金歯  
売って、銀歯売って、なあ？

宝田 女房も売り飛ばしましたわ、おらんけど！

龍次 最後は髪まで売ろうとして

宝田 売ってへん！ 売ろうとっただけじゃ！

龍次 あかんがな！ 危うくワシ、ヤミ金からヤミ床屋になるとこや  
ったわ！

舞台裏。

良太 (腕時計を確認し、テキパキと仕切っている。) 二郎さん、ベ

ースの音、上げますか？

二郎 (薬をコーヒードリで流し込みながら) 上げなくていい。

舞台上。

宝田

しかしすごいなあ。新宿の片隅から生まれたスター。

龍次

おかもち恵ちゃん、今は飛ぶ鳥を落とす、宝生恵子やで！

宝田

あの子みたいに、ワシらも売りたいんじゃない！

龍次

飛ぶ鳥ちゆうか、まず飛んでへんやないか！（小声で）売れてくれんと、今度ワシが借金背負う羽目になるんでね！

宝田

ほな龍ちゃん、今日からワレらのコンビ名――

龍次

リユージ・ジョージちゃいまんの。

宝田

「ドリームチェイス」！

龍次

馬追う気満々やがな！

宝田

馬やない！夢追うんや！ついでにギヤラも追うんや！

龍次

あかん、万馬券当って調子乗ってまんにやわ！ワシは今日から、このドリームを管理するチェイス担当です！

宝田

ハイヤーツ！

舞台裏。

麗、不機嫌そうに、派手な舞台用衣装を検分している。髪に大きなリボン。

良太

麗ちゃん。今日の主役は恵子ちゃんだよ。

麗

なんでこの私が、恵子なんかのために！

良太

あの子「麗さんのオーラ、私には一生出せない」って、ずっと言ってた。

麗

当然でしょ。

良太

なあ。今日のステージは、あんたが輝くためのバトンでもあるんだ。銀座の新天地で、いや、ここで恵子ちゃんを越える力を見せるための。

麗

…一理、あるかもね。

良太

麗ちゃん。恵子ちゃんが巢立って、このゴールデンパレスは誰が支えるの？

麗

…。

良太

あんたは、どの店でもトップだったんだろ。最高の歌で送り出して、あんたがこの店の新しい光になるんだよ。

麗

…良ちゃん。なんか変わったね。

良太

そうかな。

麗

あたしやっぱり衣装変える。約束は破れないからね。

良太

お供するよ。

舞台上。

宝田

ワシ、今日ついに万馬券よりデカいもん当たった気がするんじや！

龍次

そらそうですよ、ワシの取り立てから解放されたんですから！

宝田

笑い声じゃ！！お客さんの笑いが、最高配当なんじや！

龍次

そんなにウケてへんかったで。

宝田

なんやて！？

龍次

見てみい。恵子ちゃんまだかなて顔してますよ。

宝田

ええか！？俺たちドリームチェイス、今は前座やけども、これからは馬券やなく、観客の笑いを取りに行くんじや！

龍次

よっしゃ、ここで次の出走者を呼ばんと！

宝田 お次は、恵子ちゃんの古巣から歌で盛り上げてくれるお二人！

龍次 みなさん拍手でお迎えください！

宝田・龍次 ゴールデン・パレス、麗と良太！！

《M10》麗が割烹着に三角巾姿で登場。堂々と歌い上げる。

中盤で良太も加わる。なぜか彼も三角巾に割烹着姿。ごく丁寧に口紅まで塗っている。

途中ペアダンスのように息のあったパフォーマンス。

宝田 偽もの恵子二人！ありがとう！

麗 (掴み掛かろうと) 誰が偽もの恵子よ！

良太 (止めて) 麗ちゃん！

出番直前。緊張感が漂う舞台袖。恵子は最高のドレスを纏っている。

大井 恵子ちゃん。次の曲、まもなくです。

恵子 大井さん。これまで、ずっとありがとうございますね。

大井 (顔を上げず、小さく) いえ……。

龍次 いよいよご登場！お待たせしました、我らの歌姫、宝生恵子！

恵子 行ってきます。

恵子、ステージに向かって歩き出す。

大井 恵子ちゃん！！

舞台袖に響き渡る大声。恵子、驚いて立ち止まる。

大井 す、好きです！！僕は、あなたの……

恵子 ……？

大井 あなたの歌が！！！！

恵子 (手を振る) ありがとう、大井さん！

恵子、最高の表情でステージへ。盛大な歓声に包まれる。

大井 (その場に座り込み、両手で顔を覆い) う、うわあああ  
ん……！！

そこへ、いつの間にか戻っていた宝田が、競馬新聞を丸め、大井の肩を強く叩く。

宝田 (鼻をすすり) ようやった！お前は男や！ワシはな、恵子ち

やんの歌より、お前のその声に、魂震えたで！！

大井 うわああん！！！！

宝田、大井の肩を叩き続ける。

恵子、登場。拍手の中舞台中央に辿り着き、後ろを振り返る。

バンドスペースに、ベースを持った二郎。目があう二人。

恵子 (小声で) ……お願いね。二郎さん。

《MII》恵子が歌う。良太、麗、割烹着を脱ぎ途中からコーラスで参加。

曲の良きところで、舞台袖。幸は衣装を整えながら、タバコに火をつける。

手が少し震えている。二郎がベースを抱え、近づく。

二郎 サッチャン。

幸 (タバコをくゆらせ) 何してるの。私の番は大丈夫だから、早く戻って。

二郎 上手の一番はじ。いるか？

幸 (怪訝に) え、なに？

二郎 空席かもしれない。学ランの坊主、座ってないか。

幸の手が止まり、視線が上手端に向く。

幸 …嘘…

二郎は静かに頷き、ベースを抱えて舞台に戻る。

良太 (舞台袖に駆け寄り) 幸さん！どこいくんですか！もうすぐ曲

終わります！

幸 (叫ぶように) ちょっと繋いでて！絶対に繋いで！

幸が舞台袖の奥へ走り去る。拍手を受け去る恵子。

オールデイーズのイントロが鳴り、良太がセンターへ。

宝田 何してんねん！段取りちやうやんけ！

良太 知りませんよ！なんかトラブルらしくて、一緒に繋いで！

《M12》良太が歌い、宝田と龍次がコミカルに踊る。その場しのぎにしては上出来。

良太が舞台袖を見る。

良太 (驚愕) ……え!?

その瞬間、二郎はベースで強烈なフィルを入れ、曲調をジャズに切り替えさせる。

舞台上。スポットライトが幸を照らす。

幸 ……待たせたわね。

二郎 サッちゃん、見せてやれ。

《M13》幸の歌い出し。力強く、美しいジャズボイスが会場に響き渡る。曲終わりです。

良太 (泣きながら) 最高だああ…! !

スポットライトを浴び、観客席上手端に視線を送る。ロングドレスに身を包んだ恵子が登場する。

恵子 (まっすぐ幸に歩み寄り) 幸さん! すごかった!

幸 あんたもね、恵子。

二人は強く抱き合う。幸は恵子の背を力強く叩く。

麗 なんで勝手に曲変えてるんですか。

幸 あら、お気に召さなかった?

良太 (大泣きして) 俺、幸さんのテネシーワルツ聴けて、俺…! !

恵子 (麗の手を取り) 麗さん、ありがとう。

麗 お礼なんていらぬ。次は、あんたが世界に証明する番よ。

宝田 さあ！今宵の主役が揃いました！しかし、忘れてはいけない男が一人！

恵子 私たちに居場所をくれて、歌を教えてくれた、師匠であり最高のアーティスト！お迎えください！柳、二郎！

二郎がベースを抱えて舞台中央に進み出る。

これまでになく堂々と、力強い表情。イントロを力強くベースで弾き始める。

二郎 (マイクを握り、客席を見渡す) …行くぞ。

《M14》二郎が歌い上げる。力強く、確信に満ちている。コーラスでサポートする全員。

曲の中盤、歌を受け継ぐ面々。二郎は、ベースを弾きながら、

目を閉じたまま歌い続け、静かに舞台の袖へと流れ込むように退出する。

照明変化。舞台袖はうっすらと暗く、しかし暖かい光に照らされている。

舞台上からは、歌声と観客の歓声が途切れることなく聞こえている。

二郎は、流れ込むように舞台袖の隅に用意された椅子に座る。

宝田 (駆け寄り) どうしたんや、急に！

龍次 おい、救急車！

二郎 (宝田の腕を掴み) いいんだ、龍次。呼ぶな。

宝田 呼ぶなって…あんた！

二郎 いいんだ、聞かせてくれ…。

二郎はベースをそつと置き、目を閉じ、舞台上の歌声に耳を澄ませる。

微かに《MIS》のメロディが、舞台上の音に混じって聴こえてくる。

二郎 (消え入るような声で) 歌え…

音楽がふわりと重なる。

二郎 …歌い続けろ。

恵子 (舞台上) 今日は本当にありがとうございました！ありがとう

う！ありがとう！！

照明はゆっくりと良太へ。

良太 (ナレーション) あの夜のリサイタルは録音され、やがて一枚

のレコードになった。その針を落とした瞬間から、宝生恵子という名前は、時代の空気をさらっていった。

その音こそ、柳二郎が残していった『夢の匂い』。彼の才能は、恵子の声とともに、もう一度世界に飛ばたいのだ。

ゴールデンパレスは、銀座への移転をやめた。

ここ新宿の片隅で、今日も変わらず歌と笑い声が響いている。

二郎のベースが柔らかな光に照らされる。

良太 あの人のベースは―店の壁に、静かに飾られている。

まるで今も、「ほら、お前ら。ちゃんとやれよ」って、あの低い声が聞こえてくるみたいに。

本編の延長のようなカーテンコール。出演者は歌い、礼をする。  
やがて、二郎もあの日のままの姿で舞台に現れる。  
全員で歌う。その声は天井へ、そして劇場の外へと広がっていく。

終